

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和4年度）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

| 評価 | 左記の理由 |
|----|---|
| B | <p>(1) 自主財源の獲得に向け、関係局との調整支援や先進的に取り組んでいる地域の情報提供を繰り返し行った。 その結果、新たに2地域がペットボトル回収事業の契約をし（①令和4年4月開始、②令和4年8月開始）自主財源獲得に対する意識の向上につながり、地域課題の解決に向けた取組が進められている。</p> <p>(2) 地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体との間で連携、協働して取組を行えるよう、地域と企業、NPO等のニーズをマッチングさせ、新たなつながりづくりを実現させてきた『まちづくり交流ライブ』や『LINEを活かす』の開催、適宜地域からの相談に応じた。 その結果、企業・大学等の団体との連携を深め、荻田地域での「子ども110番の家まち歩き」や、遠里小野地域で開催された「熊野街道に竹灯籠を灯す」に大阪公立大学ボランティアセンターが参加するなど、地域活動への参画が実現した。 しかし、若い世代やマンション住民など、これまで関わりの薄かった人たちのつながりの機会創出や、新たな担い手の拡大に向けた働きかけには結びついておらず、さらなる地域活動の促進に向けた支援が必要である。</p> <p>(3) 会計担当者の負担軽減のため、積算表のフォーマットを統一し、各事業科目の整理を行い、事務を簡素化した。また、組織運営の円滑化及び適正化のため、継続的にインターネットの活用及び環境整備への助言、支援を行った。 その結果、LINEグループの作成（1地域）や、スマホ教室・ZOOMを使用したオンライン会議を開催することができた。</p> |

2 支援の内容及び効果等（2）

評価項目

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等

(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等

| 評価 | 左記の理由 |
|----|--|
| B | <p>(1) 『まちづくり交流ライブ』では、大阪公立大学ボランティアセンターの活動紹介や、子どもが気軽に参加することができる地域活動の取組事例の共有、SNS を使った情報発信の勉強会、民間企業や NPO 等とのグループワークを行うなど地域課題解決に向けた支援を行った。</p> <p>その結果、企業・大学等の団体との連携を深め、荻田地域での「子ども 110 番の家まち歩き」や、遠里小野地域で開催された「熊野街道に竹灯籠を灯す」に大阪公立大学ボランティアセンターが参加するなど、地域活動への参画が実現した。</p> <p>(2-1) ～ (3) アドバイザーの指示のもと、2名の地域まちづくり支援員が分担して担当地域を受け持っている。区の担当課と毎朝の朝礼や週 1 回情報共有会の開催を通じて地域の状況や支援の進捗状況、支援方針等について確認を行いながら支援にあたっている。</p> <p>その結果、地域の実情に応じた、迅速かつ丁寧な支援ができているが、主担当がいなくとも対応できるよう、他の支援員または副担当との連携が必要である。</p> |

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）の状況及び効果等（5つ以内）

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援の状況及び効果等

| 評価 | 左記の理由 |
|----|---|
| B | <p>各地域の実情に応じた「広報機能の強化に向けた支援」「会計事務にかかる支援」を重点支援策とし、次の取組を行っている。</p> <p>(広報機能の強化に向けた支援)</p> <p>広報機能の充実に向け、SNS を活用した広報や、地活協広報紙の発行、ホームページの運営にかかる支援を行った。</p> <p>その結果、新しく 1 地域が Instagram を開設したが、地域活動協議会のホームページを開設していない 2 地域は、今年度も開設には至らなかった。</p> <p>(会計事務にかかる支援)</p> <p>会計事務にかかる支援については、地域に寄り添った支援により、会計担当者に個別の対応を行っている。また、会計担当者の負担軽減のため、積算表のフォーマットを統一し、各事業科目の整理を行い、事務を簡素化した。</p> <p>コロナ禍の影響により、当初予定していた各地域活動協議会の事業の中止が相次ぎ、補助金使途に混乱が起こる中で、地域からの相談に応じ、補助金を有効に活用するための支援を行った。</p> |

| | |
|--|--|
| | その結果、事業内容の見直しを行い、感染対策を取りながら事業を継続する地域や、事業の充実・拡充に向けた地域があり、適正な会計事務の執行が進められている。しかし、当初予定していた事業を変更・中止せざるを得ない状況もあり、事業の進捗状況を把握しつつ時宜を得た会計事務の支援が必要である。 |
|--|--|

4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

(1) アンケート調査

| 評価 | 左記の理由 |
|----|--|
| B | 地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査結果では、「まちづくりセンターの支援がニーズに即した支援を実施していると思う」割合が今年度は90.3%となり、昨年度の結果84.8%から大幅に増加しているものの、目標値93%以上を達成できておらず、地域の実情を把握し、さらなる工夫を凝らしてニーズに即した支援を講じる必要がある。 |

5 総合評価【全体】

| 評価 | 左記の理由 |
|----|---|
| B | まちづくりセンター独自の取組である『まちづくり交流ライブ』を通して地活協と構成団体以外の企業やNPO等とのつながりづくりに寄与していること、また自主財源の確保に向けてコミュニティビジネスの導入へとつなげることができたことは評価できる。 コロナ禍で中止を余儀なくされる事業もあり、地域の運営や活動、補助金使途に関する相談が多い中で、各地域の実情に応じた対応が必要である。また、地活協形成から10年が経ち、地域の自律度に大きく差が表れており、一律の支援ではなく個別の支援が必要である。各地域に必要な支援を分析したうえで、自律的運営の促進に努めてほしい。 |

(評価基準)

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。